

校長室だより		令和5年6月8日発行
共学共高	第	
	49	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

4年ぶりの合唱コンクール

6月7日(水)、実に4年ぶりに本校の合唱コンクールが、ルネ小平にて開催された。(開会式の校長挨拶の際に、3年ぶりとお話したが、誤りでした。お詫びして訂正させていただきます)

連日、放課後から午後5時10分までの間は、クラスごとに割り振られた場所で練習を重ねてきた生徒たち。当日の朝も学校に集合して最後の練習を済ませてから会場へと向かった。

私は早めに会場へ到着し、楽屋、審査員席、舞台袖の位置関係などを把握するようにした。2階席にある審査員席の後ろの列が私の席なので、開会式の後に戸惑わないように確認をしたのだ。すると、音楽科のY先生がすでに舞台上にいて、ホールにおける声の響き具合を確認しているのだろうか、オペラ歌手さながらに舞台上で独唱されているではないか。その歌声が終わるやいなや思わず私は拍手を送った。これは私だけが目撃したマル秘の瞬間である。(ここに掲載している以上、もはやマル秘ではないが・・・)

開会式前に舞台下手へ行くと、放送部のアナウンス担当の生徒たちが綿密なりハーサルをしている。それぞれにクラスでの演奏があるから、なかなか大変である。合唱コン担当のS先生が生徒たちに寄り添って、進行台本をもとに綿密な打ち合わせをしている。放送部の生徒たちのアナウンスも素敵だ。

開会式では、まず委員長のYさんによる開会の言葉である。堂々としていて立派である。副委員長のUさんから諸注意が伝えられる。全校生徒での学園歌斉唱。ホール内に生徒たちの声が響き渡る。

第1部は1年生、第2部は2年生、第3部は3年生による演奏である。放送部の生徒が「〇年〇組、自由曲〇〇・・・、指揮〇〇、伴奏〇〇」と紹介すると、舞台下手から生徒たちが入場・整列する。指揮者が聴衆に向かってお辞儀をすると、盛大な拍手が送られる。演奏終了後にも同様に盛大な拍手が送られる。私にとっても初めての合唱コンクールであったが、総じて白梅の生徒たちの合唱は、透明感があり、繊細で美しいハーモニーを奏でる。その上で、聴く者の心に届いてくるものがあるかどうか、分かれ目になっているように感じる。私も校長賞を決めるために、すべてのクラスの合唱を採点していたが、私の心に届いてくるものがあるクラスに高得点を入れた。

もう一つ感じたことは、演奏を鑑賞する生徒の態度がよいことだ。2階席にいる私からは

1階席の最前列に並ぶ3年生たちの後ろ姿が見えていたが、演奏にしっかりと向き合っ、受け止めようとしていることが感じられた。合唱コンクールという行事は、演奏者だけではなく聴衆も一緒に創り上げていく存在なのだと思う。お互いに取り組んできたことへのリスペクトが共有されている印象だ。

結果は以下のとおりである。

全校優勝	3年9組	初心のうた
3年第1位	3年9組	初心のうた
3年第2位	3年1組	ある真夜中に
3年第3位	3年8組	初心のうた
2年第1位	2年7組	たましいのスケジュール
2年第2位	2年4組	春に
2年第3位	2年9組	夕焼け
1年第1位	1年4組	その人が歌うとき
1年第2位	1年2組	信じる
1年第3位	1年8組	鷗
伴奏者賞	3年9組	〇さん
校長賞	3年1組	ある真夜中に



全校優勝の3年9組はクラスの人数が少ないにもかかわらず、それを感じさせない出来栄であった。曲をどのように表現していくか、多目的ホールでの練習の時に全員で確認する姿が印象に残っている。声量、強弱、ハーモニー、表現など、総合的に高いレベルでの仕上がりだった。おめでとう。

校長賞の3年1組の合唱も、私の心に訴えて来るものがあつた。将来、子どもたちの教育に関わる仕事に就く生徒が多いクラスだ。情感豊かに表現して伝えていく力は、きっと将来に繋がるものだろう。おめでとう。

閉会式では、まず審査員の先生方からの講評が行われる。本校音楽科のY先生、O先生、そして清修中高一貫部音楽科のS先生からの的確で温かなお言葉をいただいた。続いて委

員長 Y さんによる審査結果発表。学年第 1 位の発表があると、どのクラスからも歓声が上がった。続いて表彰である。副委員長の S さんと U さんが介添えを務めてくれ、私から賞状を渡した。笑顔もあれば、涙する顔もあり、生徒たちの想いが伝わってくる。全校優勝クラス 3 年 9 組による再演奏を全員で聴いたのち、委員長による閉会の言葉で締めくくられた。

会場の収容人数の都合上、保護者の方々は学年ごとの入れ替え制ではあったが、多くの皆様にご来場いただいた。感謝申し上げます。

委員長の Y さんをはじめとする合唱祭委員のみなさん、主担当の S 先生をはじめとする生活指導部の先生方、そしてすべての生徒・教職員の力で無事に合唱コンクールを終えることができた。在校生の誰も経験したことのない合唱コンクールであったが、新たな歴史の 1 ページが刻まれた。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)